

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：23027

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇各種アンケートの結果から、協働的に学ぶ場を設定してきたことにより、「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」「授業中、先生や友達の話をしっかり聞くことができますか？」という質問に対しては、肯定的な回答が多いことが分かる。</p>
	<p>◇「全国学力・学習状況調査」の児童質問の結果や共通指標からは、課題に向かって主体的に取り組んだり、自分の学びを工夫して深く追求したりすることが難しいと感じている児童が多い。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市共通指標の「自分が必要とされていると感じる」の項目において、肯定的な回答が少ない状況が続いている。一方で、「人の役にたててうれしい」「人の役に立つ人間になりたい」という項目は肯定的な回答が多い。本校では、縦割りの活動やブロックでの活動を随所に取り入れており、「他学年のために」という心は育っている。自己肯定感、自己有用感が高まるような場面設定や価値付けを意識した関わりが必要となる。</p>	
<p>「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力</p> <p style="text-align: center;">仲間と豊かに関わりながら、主体的に学び続ける力</p>	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
<p>◇研究主題『「自分から」が見える授業』の実現 ⇒AAR サイクルの視点で単元・題材を構成することを意識し、子どもの主体性を育む。様々な角度からアプローチをすることで、子どもが自分の考えを表出し、他者との関わり合いをしていく中で、学びを積み重ねていけるようにする。また成長を振り返ることで、学びの連続性を感じ、前向きに取り組めるようにする。 最終的には、本校の実態に合わせた AAR サイクルの授業スタイルを探っていく。</p>	<p>◇自治的な活動を意識した「小中連携」の充実 →児童会・生徒会のつながりを深めた活動</p> <p>◇よりよい学級・学校にするための学級活動・児童会活動の充実 →学級の様々な自分事の課題を議題にした学級会の実施 →自分たちが発見したことを活動につなぐ委員会活動</p> <p>◇「スマイル活動」の充実 →他学年を意識した縦割り活動の運営、役割分担</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p>	
<p>◇オクリンクプラスなどの児童同士をつなぐツールを授業に取り入れ、個別探究・協働探究の充実を図る。ただ使うだけでなく、教材や時間配分などを精査し、子どもの学びが深まるように工夫していく。また、校内研修として、ICT の使い方や実践例などを情報提供することで、各担任が使えるようにしていく。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

